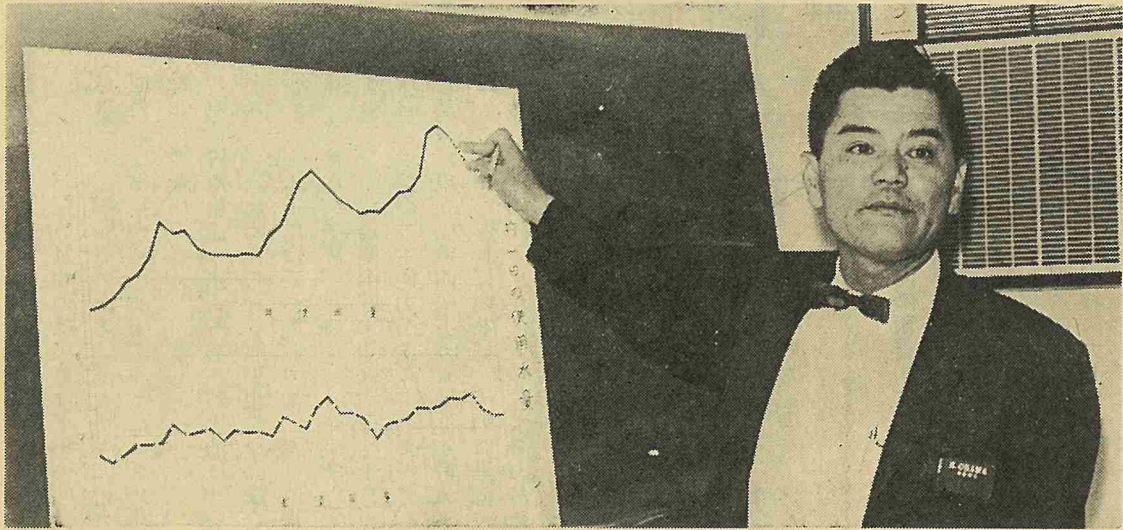


給水をつづける
ために必要な

節水



夏季の干ばつが

いまになつて影響

世界の人類は絶えず水を探し求めている。人口の増加、工業用水の確保、そしてさらに水を自由に使えるような豊かな社会をつくるという事実からこの探求は当然必要なことである。

沖繩でももっと水が欲しいということは当然のことである。

水不足を解決するにはひとりひとりが節水に心がける以外にないし、これができるれば断水も止むを得ない。

このような理由から大浜博真水道公社総裁は十月に節水に対する一般の協力を呼びかけたが、遂に十月九日から軍民ともに断水が実施された。

現在の貯水施設の貧困で、北部沖

水を無駄に使うな!



過去3カ年(1965,66,67年)における軍民の水の消費量は、軍関係が年々増えている大浜博真水道公社の需要を説明する総

繩の福地貯水池が建設される予定の一九七二年まで、干ばつ期間中断水が繰り返されるのが予想される。

大浜総裁は原水(浄水されていない水)の不足が水不足を招いていることを指適し、浄水と給水施設は充分であるが、原水を貯水する施設が不十分であると述べており、さらに現在の水不足について次の四つの理由をあげている。

増加する需要—過去三カ年軍民の消費量が増大し、特に民の需要がいちじるしく増えた。例えば一九六五年九月における一日の軍民消費量は計二千七百八十万ガロン(軍—一千二百一十萬ガロン、民—一千五百七十万ガロン)で、一九六六年九月には計三千二百萬ガロン(軍—一千三百三十萬ガロン、民—一千八百七十万ガロン)に増え、さらに今年九月は計三千六百八十萬ガロン(軍—一千

四百八十万ガロン、民一十二千二百万ガロン)と大幅にふえた。

水の供給源—全島統合上水道には二つの水源がある。川を流れる地表水と地下の水層帯である。去った六月の豪雨はすでに海に流れ去り、地下水層帯からはわずかに一日に二千六百万ガロンしか取水できない状態で結局一千万ガロンが不足している。

降雨量の不足—現在長期の干ばつに見舞われている。降雨量は七月一日から九月三十日まで嘉手納で二五

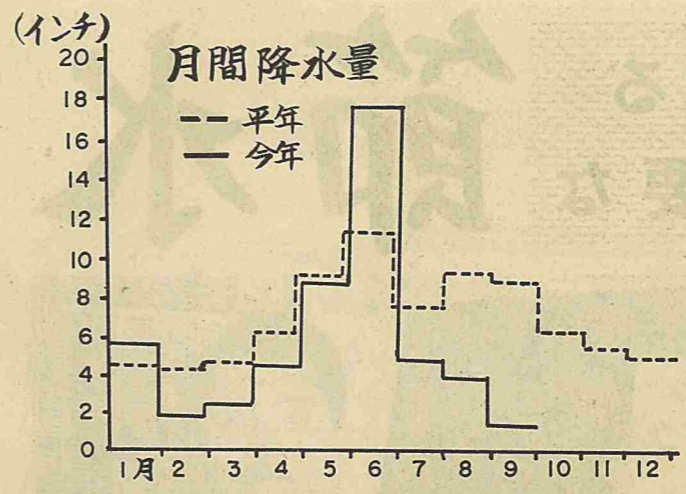
六ミリ、那覇で二五五ミリを記録した。三ヶ月間の降雨量は平年の四〇パーセントである。また九月だけでは平年のわずか十四パーセントにすぎない。

貯水施設—水を貯める貯水池は建設されねばならないし、現在全島統合上水道には三つの貯水池がある。瑞慶山、天願、キャンブ・ハンセンの三つで瑞慶山貯水池は六億二千万ガロンの貯水能力があるものの十月四日現在二億四千万ガロンしか貯水さ

ンは水道公社に対し七千七百万ガロンを越えた水を無償で取水することを承認しているが、この割り当てもすでに使用してしまっている。

八百万ガロンの節水を
断水や自発的な節水(水を無駄に使用しないこと、漏水箇所を修理することなど)で日に八百万ガロンの節水が望まれており、これは需要を満たすために貯水池から送水される一千万ガロンより二百万ガロン少ない量であるが水道関係者はこの措置は止むを得ないものとしている。

断水時における保健について
断水中はパイプ内の水圧が低下するので外的な圧力で汚水が浸み込む原因となる。このため水を清潔な器に入れて五分間沸湯してから使用すること。水を浄化する他の方法は一リットルの水に漂白剤を三滴加え、よく混ぜた後三十分間そのままにしてから使用すること。



月間降雨量—平年降雨量(点線)に比べて今年一月から九月までの降雨量は、去った六月を除いて七、八月の三ヶ月間は著しく低く、特に九月は殆んど降雨がないことを示している。

将来の水源

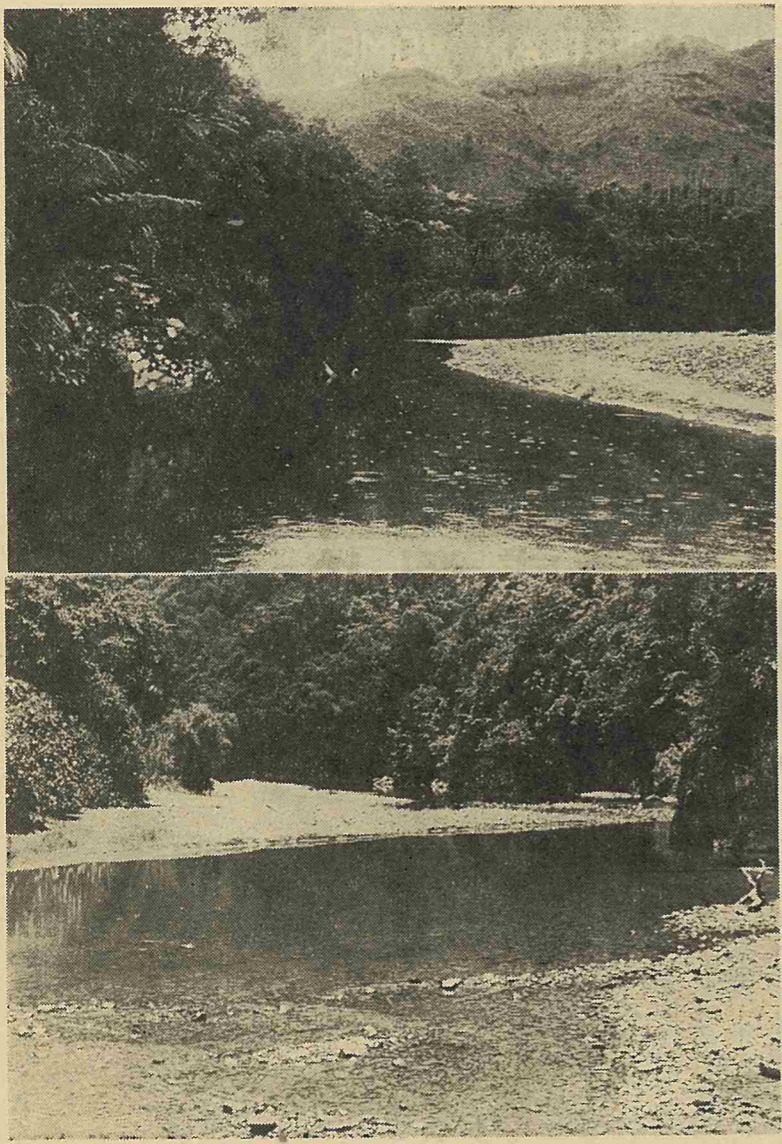
北部水源を開発する第一期工事は沖繩工兵隊によって十月三日入札が行なわれた。この工事は源河川(写真上)琉球新報提供)、平南川、大保川の水源を結ぶ三十六インチ・パ

イプの敷設工事である。来年七月までに完成する予定である。この工事は残りの工程は福地川(写真下)へのパイ

プの延長と福地貯水池の建設工事である。同貯水池は百億ガロンの貯水能力を有することになり、一九七二

年に完成されることになっている。

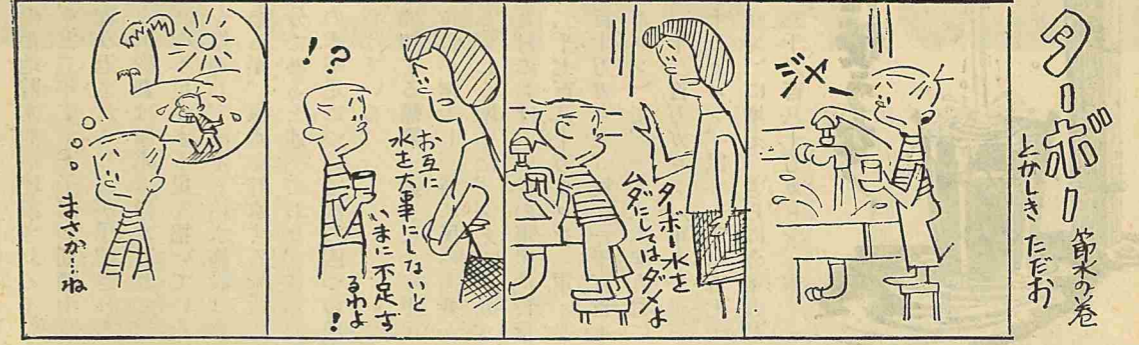
琉球水道公社は一九六五年に牧港川に貯水池を建設する計画であったが地主に反対された。この貯水池が建設されていたら現在さらに三億ガロンの水量を確保できたであろう。



英知と助言を歓迎

……日米両国は必ずしも常にその責任を同じ見地から見るとはかぎらないが、われわれ米側はこれからも常にみなさんの英知と助言を歓迎するであろう。われわれがいっしょに行なうことのできることは多い。われわれは成長と繁栄の経験を同じくしており、そのことから、われわれの隣人たちの将来を変化させ、豊かにすることのできる知識を分かち合っている。両国民の偉大さにふさわしい目標……太平洋地域の進歩と平和と安全……をめざし協力することは、われわれの任務である。

一九六七年九月十三日第六回
日米貿易経済合同委員会日本側
閣僚歓迎屋敷会におけるジョン
ソン米大統領のあいさつより



今日の琉球第十一卷十一号
一九六七年十一月一日発行

節水

夏季の干ばつで深刻な水不足を招き、瑞慶山貯水池の水位もぐっと下がっている。点線のところが満水位（3頁の記事を参照）

